

「おおばこの会」の平成22年度活動報告—冬の野鳥観察から

藤本國雄・岡崎聡郎・小林賢二・小林爽子・高瀬清美・東一文代・西尾勝彦・西田 猛・
藤本美智子・松永恵子・向山和利・山田 登・山本英夫・吉田士郎（おおばこの会）

はじめに

今年度の活動のひとつに、私たちは「おおばこの会」（自然観察サポーターチーム）のメンバーによるメンバーのための研修会を企画した。

ここにその概要を紹介して、ささやかながら活動報告にかえようと思う。

プログラムの展開

テーマ：「冬の野鳥観察」

日 時：平成22年12月4日（土）9：00～12：00

場 所：小野市南西部 男池（鴨池として知られている）周辺

リーダー：藤本國雄（おおばこの会 メンバー）

※この日は小春日和に恵まれ、青空のもと暖かい明るい光が広がっていた。10名のメンバーが参加。

観察会という形での野鳥との出会いは初体験というメンバーが多く、期待と不安の中で始まった。

1. 観察会でのフィールドマナーについての話をきく。
2. 貸与された双眼鏡の扱いについての説明と、「里山の野鳥」・「水辺の野鳥」2冊の参考図書が各自に配布された。
3. 観察開始。場所は男池・女池・皿池の池畔という狭い範囲での活動であったが、時間の流れは速く、いくつかの感動を体験することができた。
4. この日観察した野鳥の種類は22種。お互いに報告しあい、確認しあう。12時過ぎ解散。

観察内容とメンバーの「つぶやき」

- 美しいコバルトブルーの羽をした一羽のカワセミ。30mほど先の池畔の枯れススキに身を置き、池水に身をぶつけるようにして小魚をねらい、再びもとの場所に戻ってくる。この動作の繰り返し。見入ること30分余り。（「敏捷にして佳麗。」「ススキの茎にとまれるくらい鳥は軽いのだろう。」）

- 皿池の対岸、山の中腹、木の枝に体を休めているミサゴの姿。猛禽らしい風貌をどこか感じさせる。休息するミサゴ、天空に輪を描くミサゴ。（「何をねらっているのか？」）

- 頭を水中に突っ込み、逆立ちした形で藻を漁る鴨の姿態。サーッと音を立てて着水する鴨。群れをなし雌雄のつがいで遊弋する鴨。

（ヒドリガモ・オナガガモ・コガモ・ハシビロガモ）（「様々な姿との出会いは楽しい。」「わずかな音に気付くことも大切だ！」）

- 樹間に遊ぶヒヨドリ・カワラヒワ・メジロ・ジョウビタキ。

- ハシブトガラス・ハシボソガラスの鳴き声の違い。（「楽しい発見！」「町中でも見たことがある鳥もいる？」）

今後への展望

自然という舞台に子ども達を立たせようとする時、話題の広がりを持たせることが大切である。そのためにもサポーターは博物学的知識の拡大にも努めなければならない。今後も多様なテーマを用意し、研修の場に提供したいと思う。また子ども達を指導する場合、安全を第一としながらも、子ども達の自然へのマナーを身につけさせることをなおざりにしてはならない。



双眼鏡で野鳥を観察するメンバー



枯れススキにとまるカワセミ